

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2010年7月調査結果-

2010年8月12日

調査要領

- 調査期間 2010年7月16日～23日
- 調査対象 200社
- 回答企業 124社
- 回収率 62.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を合致回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値＝（増加・好転などの企業割合）－（減少・悪化などの企業割合）

業況・採算：（好転）－（悪化） / 売上：（増加）－（減少）

旭川市概況

※全産業の7月の状況を見ると業況DIは、前月より8.2ポイント回復の▲32.3。

平成7年4月調査開始以来184ヵ月連続マイナス2桁水準で推移している。

業種別では、建設業・製造業・卸売業・小売業の4業種で回復となった。

※向こう3ヵ月の先行き見通し業況DIは▲41.1と悪化しており、依然として厳しい状況である。

業種別でみると、建設業・製造業・卸売業・小売業の4業種が悪化しており、地域経済や足下の景気感は依然として厳しい状況となっている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
業況	▲57.4	▲58.5	▲37.8	▲34.1	▲40.5	▲32.3	▲41.1
売上	▲41.8	▲30.5	▲20.0	▲22.5	▲23.7	▲21.0	▲33.1
採算	▲40.2	▲33.1	▲29.6	▲21.7	▲29.0	▲26.6	▲36.3
仕入単価	▲22.1	▲17.8	▲34.1	▲27.9	▲26.0	▲31.5	▲25.8
従業員	▲21.3	▲12.7	▲7.4	▲9.3	▲8.4	▲12.9	▲10.5
資金繰り	▲30.6	▲26.3	▲16.4	▲12.4	▲13.0	▲14.5	▲24.2

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
建設	▲65.4	▲68.0	▲50.0	▲42.9	▲51.7	▲50.0	▲53.6
製造	▲57.7	▲58.3	▲22.6	▲19.2	▲26.9	▲4.1	▲25.0
卸売	▲50.0	▲40.0	▲28.1	▲17.3	▲39.3	▲19.2	▲19.3
小売	▲52.6	▲50.0	▲34.8	▲33.4	▲37.5	▲29.2	▲50.0
サービス	▲60.9	▲77.3	▲61.9	▲63.6	▲45.9	▲59.1	▲59.1

今月のトピックス（業界の声）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地造成等で、モデルハウス等非常に多く公開しても集客が少なく、売れ残りが目立つ。大型造成の増加による、さらなる土地デフレ問題が心配。市内全体の土地下落に繋がっている。 ・新築減少しているが、住宅塗替え工事が前年より20%くらい多い。 ・新分野進出。必ずしも好調とは言えないが、もう一歩で採算に乗れそうだ。 ・小額工事が多く、人手不足で採算が厳しい。 ・参議院選挙後の公共事業発注をいかに受注するかによって、今後の業況が大きく変わると思われる。 ・大型の業界モデル公開を行って3ヶ月たつが契約実績は伸びていない。建主様の慎重な対応となっており、視界不良の年となるのでは。景気的好転がなければ、消費税アップは業界のアゲンストの風になる。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・原料価格が5月以降3回に渡ってじわじわと上昇するも価格転代は厳しい。末端の消費動向も伸び悩み。 ・厳しい状況は変わらないが、9月頃より状況は少し上向きになる期待感がある。政治頼みの景気は期待できないが、自社努力にて勝ち取るしか見込めない。 ・受注状況はやや持ち直してきている。例年の夏場は比較的に閑散期だが、在庫を削減してきたため生産に追われている。営業面では秋口の需要期に向けての販促に注力していく。 ・昨年と比べ、本州向けの仕事は多少動きが良くなってきている感じがする。しかし道内及び市内の状況は悪い。地元の受注は当社の全体の売上げの10%程度となっている。
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・全体としては先月までと大きな違いはないが、相変わらず力強さには欠ける。夏のギフト及び、お盆商戦に注目。 ・食品業界は依然としてデフレ傾向が続いている。 ・6月～7月と天候が順調で、夏物衣料の売れ行きが好調となった。 ・春先の低温による遅れがあるものの、本州方面での降雨による被害もあり道内の農産物は堅調。しかし量販店の安売競争は激化の為、利益率は薄い。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・石油販売は原油の高騰もあるが、消費需要が低下しており、市場価格の乱高下が毎日行われている。しかし業種毎の消費先は燃料の節約を実施しているため、売上採算ともに伸長は見られない。 ・新車市場は堅調だが、受注残による登録が売上を作り出している。9月までの補助金を受けられるか、ギリギリの時期を迎え受注については明らかに悪化している。 ・サマーセール時期なので例年は多くの集客があったが、今年は前の月からプレセールを行うショップが多かったのもあり、例年程の混雑にはならず、立ち上がりから思うように売上が伸びず苦戦。アイテム別でも今年は特に暑い日が多かったものもあり、単価の低い盛夏物が売上の中心となり、薄手のブルゾンやジャケットなどのアウター類の動きが悪いのも、売上が伸びない要因である。 ・夏季イベント等により、先月よりは注文は多いものの夏山登山等の事故の影響もあり、昨年から見れば売上減。仕入れも野菜等は安定感があるが、思いの他高値で推移している。 ・過当競争が厳しく、利益が見込めない案件が増えている。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路無料化により売上減少。事故・渋滞も懸念。 ・宿泊の稼働は善戦しているものの、低単価により前年を上回ることができない。 ・月第1週目に空室が出るという過去3～4年にはない状況となった。7月9日以降に中国インバウンドが本格的に動き出し、弊社も受け入れている。旅行会社からの予約は今年に入り前年を下回っていたが、夏休み時期は回復している。7月トータルでは単価の落ち込みで減収となる。 ・稼働率は前年並みだが、ADRは若干下落。インバウンド客が一昨年並みとなり増加傾向にある。人件費・販管費削減により、営業利益は確保。観光客はもどりつつあるが、上旬の動向は鈍化していた。 ・公共事業費の大幅な削減に重なり、発注の遅れも続いている。今後の資金繰り・採算の悪化が予想される。 ・宿泊人数増も単価下落が続き、昨年並みの営業収入。今年の国内旅行者4%増との見方があるも、予約状況は悪く、景気回復にはまだ時間がかかる。

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI11.2 ポイント、採算 DI5.1 ポイント、仕入単価 DI10.7 ポイント、従業員 DI14.7 ポイント、資金 DI4.2 ポイント悪化。総じて業況 DI は 1.7 ポイント回復となった。業種別では、総合工事 14 ポイント悪化。設備その他 14 ポイント、建築業 7 ポイント回復となった。大型の業界モデル公開を行って 3 ヶ月たつが、契約実績は伸びておらず、建主の慎重な対応となっており、視界不良の年となるのではとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>仕入単価 DI11.5 ポイント、従業員 DI11.0 ポイント、資金 DI4.6 ポイント悪化。売上 DI23.1 ポイント、採算 DI3.5 ポイント回復、総じて業況 DI も 22.8 ポイント回復となった。業種別では、印刷出版 17 ポイント悪化。食料品 33 ポイント、家具木材 17 ポイント、金属窯業他 45 ポイント回復となった。本州向けの仕事は多少動きが良くなってきているが、道内及び市内の状況は悪く、地元の受注は当社の売上の 10%程度との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>仕入単価 DI13.9 ポイント悪化。売上 DI10.7 ポイント、採算 DI10.2 ポイント、従業員 DI6.3 ポイント、資金 DI6.8 ポイント回復、総じて業況 DI も 20.1 ポイント回復となった。業種別では、繊維 67 ポイント、食料品 22 ポイント、機械鋼材 12 ポイント、その他 7 ポイント回復となった。春先低温による遅れがあるものの、道内の農産物は堅調、しかし量販店の安売競争が激化しているため、利益率は薄いとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI8.3 ポイント、従業員 DI4.1 ポイント、資金 DI12.4 ポイント悪化。仕入単価横ばい。採算 DI4.1 ポイント回復、総じて業況 DI も 8.3 ポイント回復となった。業種別では、家電時計他 33 ポイント悪化。衣料品横ばい。食料品 43 ポイント、自動車 13 ポイント回復となった。新車市場において、9 月までの補助金が受けられるかギリギリの時期を迎え、受注については明らかに悪化しているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>採算 DI10.7 ポイント、資金 DI6.4 ポイント回復。売上 DI12.5 ポイント、仕入単価 DI2.6 ポイント、従業員 DI9.1 ポイント悪化、総じて業況 DI も 13.2 ポイント悪化となった。業種別では、飲食 33 ポイント、整備業 8 ポイント回復。クリーニング 100 ポイント、ホテル 35 ポイント、その他 15 ポイント、運送 29 ポイント悪化となった。公共事業費の大幅な削減に重なり、発注の遅れも続いているため、今後の資金繰り・採算悪化が予想されるとの声も寄せられている。</p>